

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ミカ ⑤ - 裁きと救いの関係』

武田真治牧師

ミカ書 2:12-3:4 ローマの手紙 9:24-33

ミカ書を読み進めています。今迄、預言者ミカが取り継いで来た預言=神様の言葉は“(このままでは)エルサレムが滅亡する”という“裁き”の預言でした。ところが、今日の箇所は「ヤコブ(=イスラエル)よ、わたし(=神様)はお前たちすべてを集め、イスラエルの残りの者と呼び寄せる。わたしは彼らを羊のように囲いの中に、群れのように、牧場に導いてひとつにする。彼らは人々と共にざわめく。」とミカは神様の言葉を語り始めます。これは、この箇所の「題」にもありますように『復興の預言』です。神様が(滅んでしまった後にも)必ず「残りの者と呼び寄せ」「牧場に導き」「(楽しく安心して)ざわめく」ようになるという“希望の預言”なのです。ただ、現代の聖書の研究者の中には、裁きばかり預言して来たミカが急に希望の預言をするのはおかしいと言い、この復興の預言は後の編集者や他の預言者がここに付け加えたのだと言われます。どうも、エルサレムが滅びるまでは“裁きの預言”で、滅びた後(=バビロン捕囚以後)は“救いの預言”という固定化があるかもしれませんが、しかし、神様は滅びと救いのどちらか一方しか語られない方なのではないでしょうか？

すべてを裁かれ、滅びるしかないとなれば、もはや諦めるしかありません。また、何をしても救われる、みんな救われるとなれば、真剣生きることをしなくなることはないでしょうか。裁きと同時にその裁きから救われる道(=新約で言えば「のがれの道」)も備えておられるから、そこを目指して生きようとするのだと思います。また、必ず救っていただくと信じられるから、私たちは苦しいことも、辛い今も“試練”として受け止め、忍耐できるのではないのでしょうか？

ミカは一方で「聞け、ヤコブの頭たち、彼らはわが民の肉を食らい、皮をはぎ取り、骨を解体する。今や、彼らが主に助けを叫び求めても、主は答えられない、御顔を隠される」と“裁き”を告げますが、もう一方で「打ち破る者が、彼ら(=その

「残りの者たち」)に先立って上ると、他の者も打ち破って、門を通り、外に出る。彼らの王が彼らに先立って進み、主がその先頭に立たれる。」という“救い”の預言も併せて語り掛けています。この“残りの者”についてはミカだけでなく、むしろ昔から神様は希望として人々に語り掛けて来られました。あのノアの洪水の時も、ノアの家族と動物たちが“残され”ました。出エジプトしたイスラエルの民のうち、最初からの人達のほとんどは亡くなりましたが、ヨシュアとカレブと第二世代の子供たちは“残された”のです。

伝道者パウロはローマ書9章で「たとえイスラエルの子らが海辺の砂のようであっても、残りの者が救われる」というイザヤの預言を引用しながら、その“残りの者”こそ私たちキリスト者であると語っています。ここに“救い”があります！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 10月11日(水) 20:00
II. 10月12日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈禱主題: 教育週間合同礼拝を覚えて
担当者: (水) 松下 (木) 岡本
祈りに覚える人: 鈴木さん 須田さん

【教勢報告】

主日礼拝 男 24 女 48 計 72
祈禱会 I. 男 5 女 3 計 8 II. 男 2 女 8 計 10
日曜学校 幼稚科 2 小中 8 計 10

【次週—こどもとの合同礼拝】 10月15日(日)

聖書: マルコによる福音書 10:17~27
説教: 「らくだがはりのあなをとおる」

武田真治牧師

讃美歌: 507(1)、32、60(1~3)、533(1~2)、200(1~4)、24(1)

【次週当番表】

司式: 坂田長老 奏楽: 須田 礼拝: 齋藤長老
献金: 中村 奈良 受付: 飯島 吉岡
会堂準備: 小杉 富澤 長田 橋本
北條宏子

看板: 曾我 週報: 吉岡 お花: 羽倉

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・大掃除 ・オリブの葉編集委員会
・幼稚園理事会

2023年 10月 8日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>